

国土数値情報の整備・利活用に関する 取り組み報告（令和6・7年度）

国土交通省 政策統括官付
地理空間情報課
2025年5月12日

今後の国土数値情報の整備のあり方検討会 最終とりまとめ（令和6年7月25日公開）振り返り

国土数値情報の概況

(歴史と現状)

- 整備開始より**50年**（一般公開して**20年以上**（民間企業での利用が拡大））
- 国土の基礎的な情報（約**190項目**）を提供し、年間ダウンロード数は**200万件以上**（令和5年度）
- 一方、整備にあたっては厳しい予算制約

(特徴)

- **統一したフォーマット**でパッケージし、**無償で提供**。多様なデータを組み合わせ利用しやすい環境を提供
- 全国のデータを**過年度分も含め提供**。特定のエリアや時点の分析のみならず**空間的、時間的にも広範な分析が可能**
- **公的な情報を原典**とし、検査基準を設けることで**高い品質を確保**。**信用できる情報として利用が可能**

(意義)

- **信頼できるGISデータ**として**社会的に認知**されている存在
- 行政機関や民間企業が保有・提供する様々なデータと組み合わせることで、正確性の高い分析等を行うことができる、**我が国の重要なインフラデータ**

国土数値情報を取り巻く環境（時代の要請）

- 地理空間情報関連技術の進展・普及（AI判読、点群データ等）
- 国によるDXの推進（オープンデータ推進、デジタル田園都市国家構想等）
- データを活用する社会の実現（EBPM、デジタル人材の育成、スマートシティ政策等）

デジタル技術・データ活用による社会全体の生産性向上に貢献する国土数値情報に

今後の国土数値情報の方向性

- 引き続き、社会の重要な**インフラデータ**としての機能を果たすため、**国土の基礎的な情報**（位置・属性）を**一定の精度**を担保して整備し、広く提供していく
- さらに、今後のデータ活用社会に貢献すべく、**ニーズを把握し、新たなユーザーを取り込みながら、より開かれた・使われる国土数値情報**への転換を進める

これらの方向性に沿って、3つの論点から整備方針を検討し、各論点における課題と対応策をとりまとめた

整備方針の検討における3つの論点

ニーズ（行政・民間）の把握

ユーザーの拡大

効率的な整備手法・提供方法

3つの論点における課題と今後の対応策

課題

- ニーズ（行政・民間）の把握
- ユーザーニーズや利用シーン、活用事例を十分に把握できていない
 - ユーザーアンケート以外の方法での個別ユーザーのニーズの把握方法がない

- ユーザーの拡大
- 新規ユーザーを拡大するための新たな取組みが実施できていない
 - 商用利用不可・公開不可となっているデータが存在しており、商用目的のユーザーを取り込めていない
 - 整備計画等の情報提供が十分にできていない

- 効率的な整備手法・提供方法
- 原典資料がGISデータ化されていないことが効率的な整備を阻害
 - どのデータ項目を整備するか明確な判断基準がない
 - 一部目視作業を行っており整備の自動化ができていない
 - 検索性が低くユーザーが必要な情報にたどりつけない
 - ダウンロードサイトの操作性が低い

今後の対応策

- 官民各主体のニーズ把握
 - ・ラウンドテーブル形式で意見交換を実施し有識者、民間企業等からのニーズ、利用シーンを把握
 - ・国、地方自治体等へのニーズ調査アンケートを実施
 - ・ユーザーのデータ整備・更新の要望や活用方法等を投稿できる仕組みをダウンロードサイト内に構築し、多様な意見が集うオープンな場を設ける

- 新規ユーザーの利用促進に向けた取組
 - ・データサイエンティスト等の参加を募ったデータ活用コンペ等の開催
 - ・ベースレジストリとしての位置づけに向けた検討
 - ・自治体職員や市民への周知
- 商用利用に向けた取組
 - ・商用利用不可・公開不可データをオープンデータ化するための原典保有者との調整
- 効果的な情報発信
 - ・整備計画、活用事例等の発信
 - ・SNS等の活用

- 原典資料のGISデータ化の支援
 - ・ガイドライン等の作成・普及を所管省庁と連携して実施
- データ整備・更新の判断基準となる評価軸の設定
 - ・信頼性等の評価軸を設定して総合的・合理的に判断できる仕組みの構築
- 新たな技術の活用
 - ・AI技術の導入可能性を検討
- アクセシビリティ向上
 - ・e-GOVポータルへの登録、メタデータへのアクセシビリティの向上、属性情報のわかりやすい表示
- ダウンロードサイトの仕組みの改善
 - ・一括ダウンロードやファイル形式等での選択式ダウンロードの実施

国土数値情報の整備・公開 不動産情報ライブラリ

- 洪水浸水想定区域データについて、年度の前半で整備完了した分のデータを先行して公開。
- 250mメッシュの将来推計人口データを初めて整備（従来は1km・500mのみ）。

データ公開日	公開データ項目	データ整備年度
2024/5/31	土地利用メッシュ・都市地域土地利用細分メッシュ・土地利用細分メッシュ・土地利用3次メッシュ（北海道・東北地域）	令和5年度
	津波浸水想定、土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域（河川単位 / 1次メッシュ単位）、高速バス停留所、大規模盛土造成地	令和5年度
2024/6/7	高速道路時系列、鉄道、鉄道時系列	令和5年度
2024/6/14	高潮浸水想定区域、多段階浸水想定、砂防指定地	令和5年度
2024/6/21	人口集中地区	令和5年度
	駅別乗降客数、都市計画決定情報	令和5年度
	福祉施設、学校、小学校区、中学校区	令和5年度
2024/9/18	都道府県地価調査	令和6年度
2024/11/14	洪水浸水想定区域（河川単位）	令和6年度
2025/2/5	将来推計人口 R6国政局推計 （1kmメッシュ / 500mメッシュ / 250mメッシュ）	令和6年度
2025/3/19	地価公示	令和6年度

- 雨水出水浸水想定区域データを新規公開。
- 令和6年度同様に、洪水浸水想定区域データは年1回ではなく年2回更新の想定。

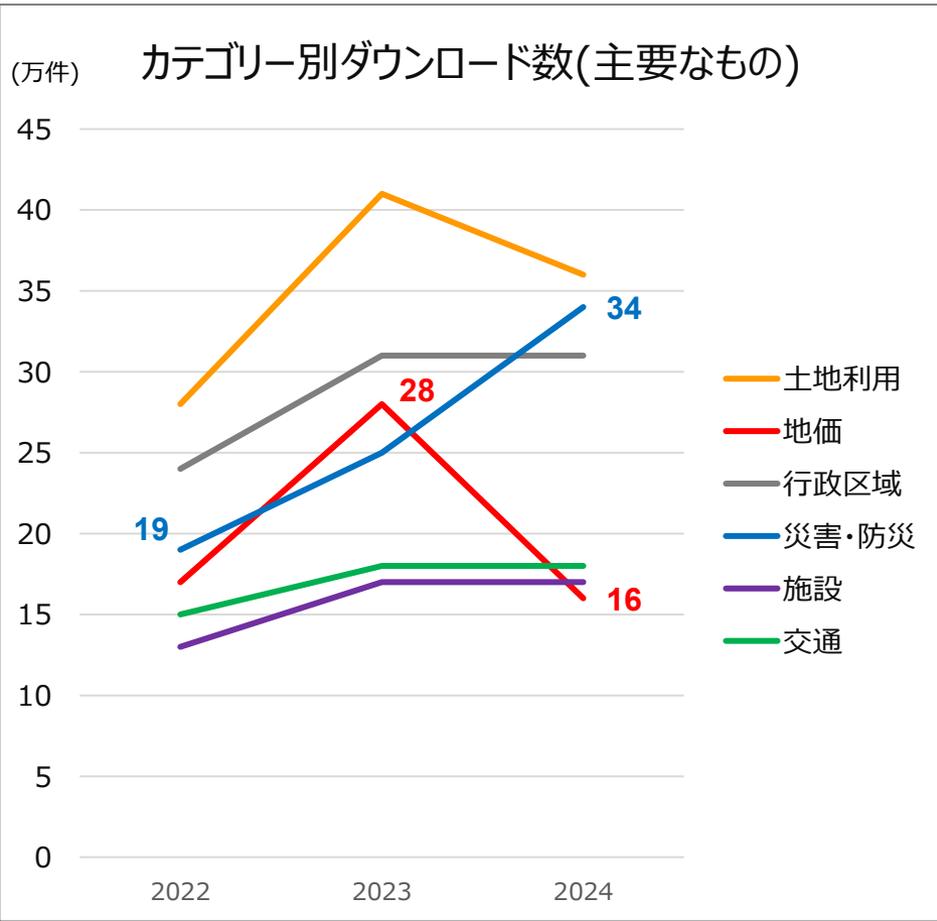
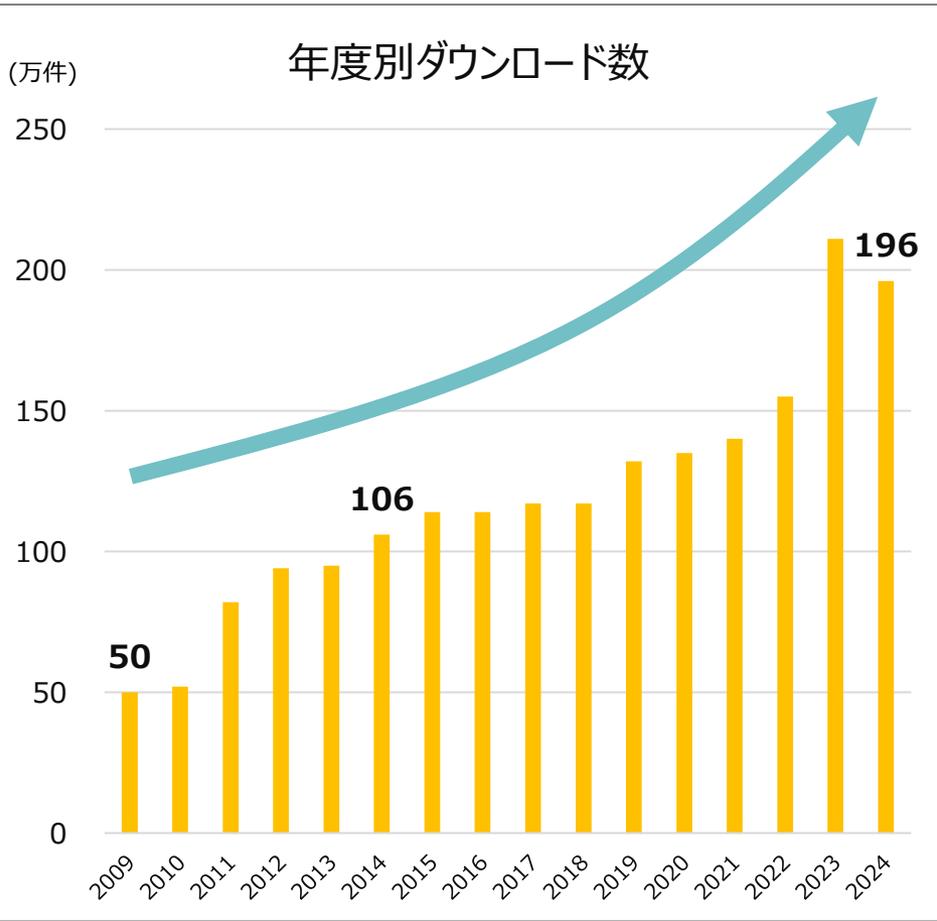
データ公開予定日	公開データ項目	データ整備年度
2025年5～6月	洪水浸水想定区域 (河川単位 / 1次メッシュ単位)、土砂災害警戒区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域、多段階浸水想定、緊急輸送道路	令和6年度
	鉄道、鉄道時系列、高速道路時系列	令和6年度
	行政区域、位置参照情報、都市計画決定情報	令和6年度
	駅別乗降客数	令和6年度
2025年9月	都道府県地価調査	令和7年度
2025年11月	洪水浸水想定区域 (河川単位)	令和7年度
2026年3月	地価公示	令和7年度

- データの新規整備・更新にあたり、実際にデータを利用するユーザーの声をデータ仕様やデータの提供方法に反映させることを目的に、ユーザーヒアリングを強化している。
- 新規データとして、「宅地造成等工事区域・特定盛土等規制区域」データの仕様設計
- 「道路」データの仕様設計、ユーザーヒアリング（6回）、整備
 - ・ 現行の公開データは平成7年度整備のため、約30年ぶりのデータ更新
 - ・ 数値地図（国土基本情報）の道路中心線を原典資料として整備
 - ・ 現行の公開データと比べて整備対象の道路を拡大
 - ・ 数値地図由来の属性情報（道路分類、幅員区分等）を付与
 - ・ 令和6年度は西日本エリアを整備、今年度に東日本エリアを整備し、整備完了後にデータ公開
 - ・ 現行データにあるが付与できない属性（路線名称等）があるため、別途属性付与の手法等を、対応時期含め検討・調整中
 - ・ 数値地図で接合されていない交差点の接合処理の手法等も対応時期含め検討中
- 「河川」データの仕様設計、ユーザーヒアリング（3回）、整備（1県分を試行整備）
- 「洪水浸水想定区域」データのユーザーヒアリング（3回）

主なヒアリング事項

- ・ データの利用状況、利用ニーズ、利用シーン、利用事例
- ・ データの仕様についての意見、要望
- ・ データの提供単位やファイル形式、その他提供方法についての意見、要望
- ・ 国土数値情報自体への意見、要望

- 令和6年度のダウンロード数は約196万件で、昨年比でやや減少。
- 災害・防災カテゴリーのダウンロード数が右肩上がりする一方で、不動産情報ライブラリのAPI経由でのデータ利用が可能になっている地価公示・都道府県地価調査データのダウンロード数が大きく減少。

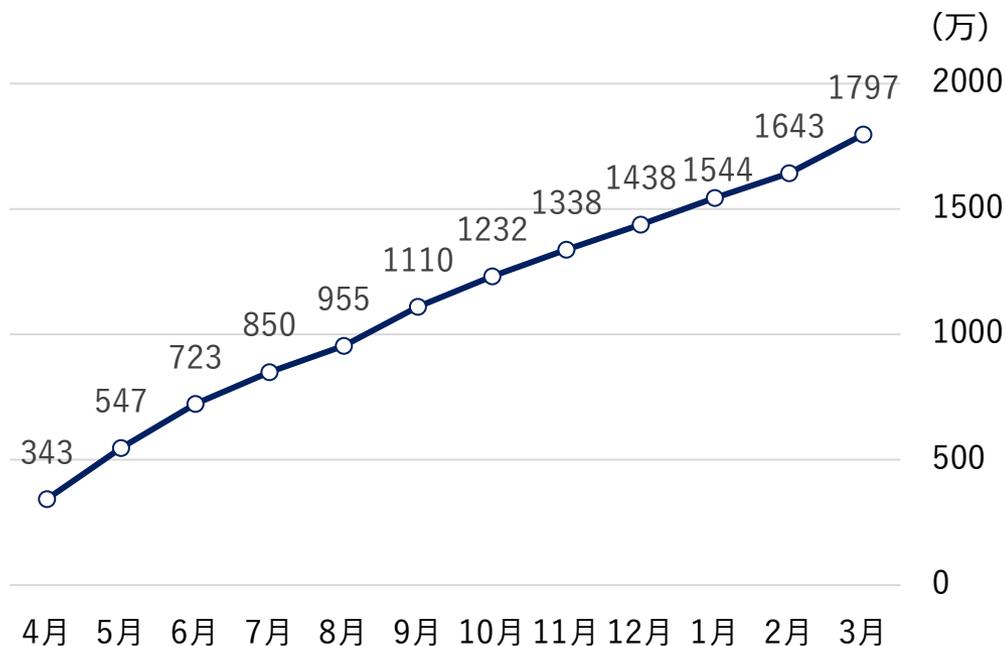


- ダウンロード数が多いデータの傾向には大きな変化は見られない。
- 前述の通り地価公示・都道府県地価調査のダウンロード数が減少しているほか、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域の伸びが目立つ。

	2024年度		2023年度		2022年度	
	DL数	順位	DL数	順位	DL数	順位
行政区域	246,682	1	235,609	1	176,413	1
土地利用細分メッシュ	169,719	2	172,628	3	107,846	3
地価公示	120,620	3	174,431	2	112,055	2
土地利用3次メッシュ	93,024	4	132,231	4	84,915	4
平年値メッシュ	74,744	5	53,585	6	40,561	7
標高・傾斜度5次メッシュ	65,252	6	46,352	8	38,251	9
洪水浸水想定区域（河川単位）	64,373	7	40,465	10	44,362	6
洪水浸水想定区域（1次メッシュ単位）	57,040	8	43,910	9		
河川	55,338	9	49,528	7	40,390	8
土砂災害警戒区域	42,070	10	28,513	18	23,037	16
上位10データ	988,862 (全体の50.6%)					
標高・傾斜度3次メッシュ	39,946	11	39,883	10	27,314	13
都道府県地価調査	36,895	12	100,632	5	58,025	5
避難施設	35,561	13	28,520	17	30,351	10

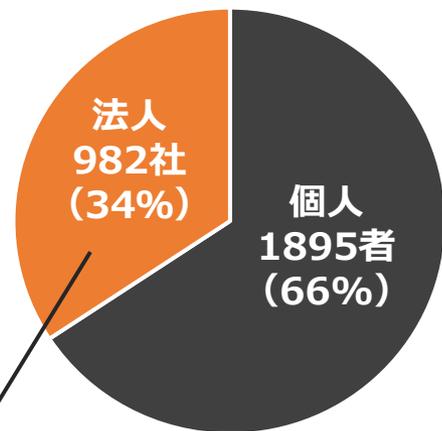
- 運用開始から1年間の累計ページビュー数は約1800万。毎月100万以上のページビューがあり、誰もが不動産情報を容易に閲覧できるサイトとして安定的に稼働。
- システム連携サービスの利用者も2800者を超え、不動産業以外の業態も多く利用。

累計ページビュー数 (2024/4/1~2025/3/31)



3月31日 (24時時点) の累計PV 17,979,921回
 ※うち、スマートフォンでの閲覧：28%、PCでの閲覧：72%

API利用申請者件数 (2877者)



不動産関係業種

：デベロッパー、ハウスメーカー、
不動産テック、不動産鑑定、
物件ポータルサイトなど

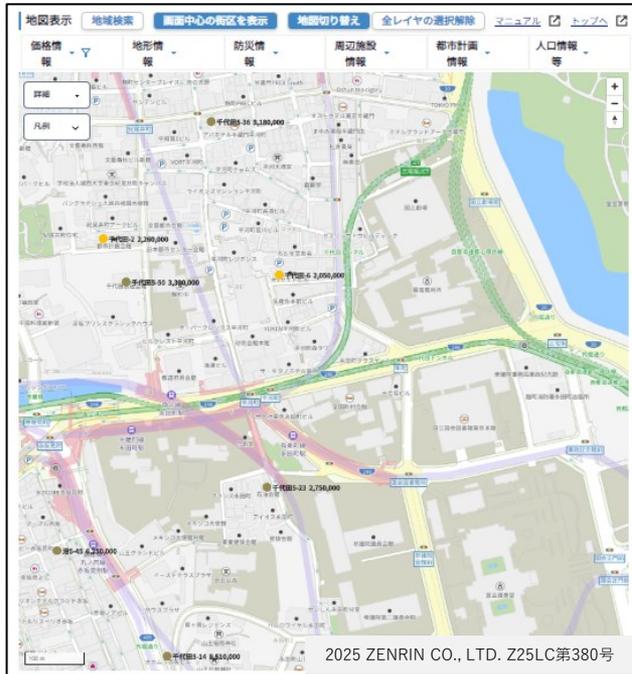
不動産以外の業種

：自治体、保険、通信、マスコミ、
 運輸、など

※代表的な利用者を太文字で記載

累計APIリクエスト数 (合計47,401,825件)

地図画面表示の掲載情報PV数（合計12,753,144件）



不動産情報ライブラリ 地図表示画面

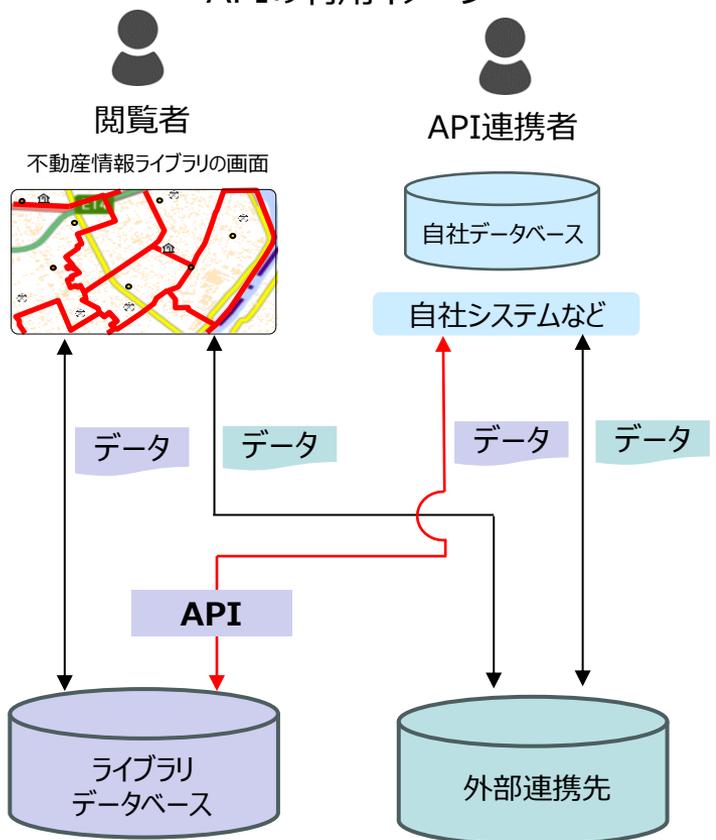
#	項目	PV数	#	項目	PV数	#	項目	PV数
1	国土交通省地価公示	1,989,862	13	地すべり防止地区	249,842	24	将来推計人口	140,600
2	不動産取引価格情報	1,706,481	14	指定緊急避難場所	236,647	25	小学校区	136,431
3	都道府県地価調査	1,690,682	15	陰影起伏図	226,867	26	駅別乗降客数	127,763
4	成約価格情報	1,528,770	16	大規模盛土造成地	216,898	27	中学校区	108,129
5	都市計画区域/区域区分	532,023	17	防火・準防火地域	213,332	28	保育園・幼稚園等	87,062
6	洪水浸水想定区域 (想定最大規模)	350,279	18	地区計画	213,246	29	医療機関	83,125
7	用途地域	305,970	19	立地適正化計画	205,740	30	図書館	78,172
8	土砂災害警戒区域	301,393	20	高度利用地区	203,333	31	自然公園地域	76,232
9	津波浸水想定	280,310	21	土地条件図	193,825	32	市区町村役場及び 集会施設等	70,629
10	災害危険区域	266,436	22	学校	174,540	33	福祉施設	69,260
11	高潮浸水想定区域	253,664	23	国勢調査(世代別 人口)	144,208	34	地形区分に基づく液 状化の発生傾向図	37,857
12	急傾斜地崩壊危険区 域	253,536						

※1地形区分に基づく液状化の発生傾向図は10月30日より公開

※2集計時点2024年4月1日～2025年3月31日

○ 不動産情報ライブラリでは、掲載情報の一部（国土数値情報や都市計画関係の情報）をAPIで提供しており、リクエスト数は増加傾向にある。

APIの利用イメージ



小学校区、学校、価格情報、都市計画など**27項目**

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、陰影起伏図など

累計APIリクエスト数（合計47,401,825件）

#	項目	リクエスト数	#	項目	リクエスト数
1	都道府県内市区町村コード・名称取得	16,508,554	15	保育園・幼稚園等	353,929
2	地価公示・地価調査	6,217,489	16	地区計画	324,090
3	不動産取引価格・成約価格（位置情報なし）	5,865,456	17	防火・準防火地域	308,777
4	将来推計人口	4,722,067	18	高度利用地区	273,716
5	用途地域	2,983,190	19	大規模盛土造成地マップ	269,966
6	学校	1,791,099	20	自然公園地域	264,498
7	不動産取引価格・成約価格（位置情報あり）	1,785,169	21	災害危険区域	251,267
8	小学校区	1,266,735	22	地すべり防止地区	227,947
9	地形区分に基づく液状化の発生傾向図	981,810	23	立地適正化計画区域	224,309
10	医療機関	497,963	24	図書館	202,502
11	都市計画区域／区域区分	482,446	25	市区町村役場及び集会施設等	193,715
12	福祉施設	433,594	26	急傾斜地崩壊危険区域	144,719
13	中学校区	376,757	27	鑑定評価書情報	81,885
14	駅別乗降客数	368,176			

※1地形区分に基づく液状化の発生傾向図は10月30日より公開

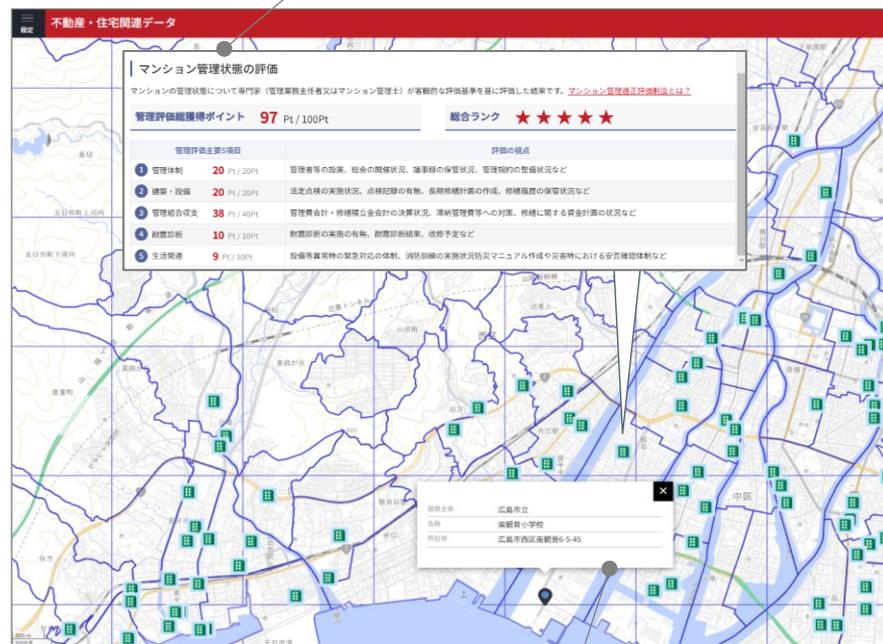
※2集計時点2024年4月1日～2025年3月31日

- 不動産情報ライブラリからAPI連携で入手する情報と、自治体が独自で収集する情報を組み合わせることで、よりきめ細かな地域の状況を可視化。不動産市場の活性化等を期待。

	種別	出典
地域の利便性 (周辺環境・施設情報)	小学校区・中学校区	不動産情報ライブラリ
	学校・保育園・幼稚園	
	医療機関・福祉施設	
	図書館	
	役場・集会施設・駅	
地域の安全性 (災害リスク)	徒歩圏内の施設充実度/高低差/徒歩圏内の緑の割合	日建設計総合研究所
	浸水想定区域、津波災害警戒区域、土砂災害警戒区域ほか	県・市町
住宅に関する情報	マンションの管理状況	一般社団法人マンション管理業協会
	推定空き家の分布	県
	空き家バンク掲載物件	県・市町
	不動産取引価格情報・成約価格情報	不動産情報ライブラリ
都市計画法 建築基準法	都市計画区域、区域区分、用途地域、防火・準防火地域、高度利用地区、地区計画、立地適正化計画ほか	県・市町

活用例：県民の居住地検討

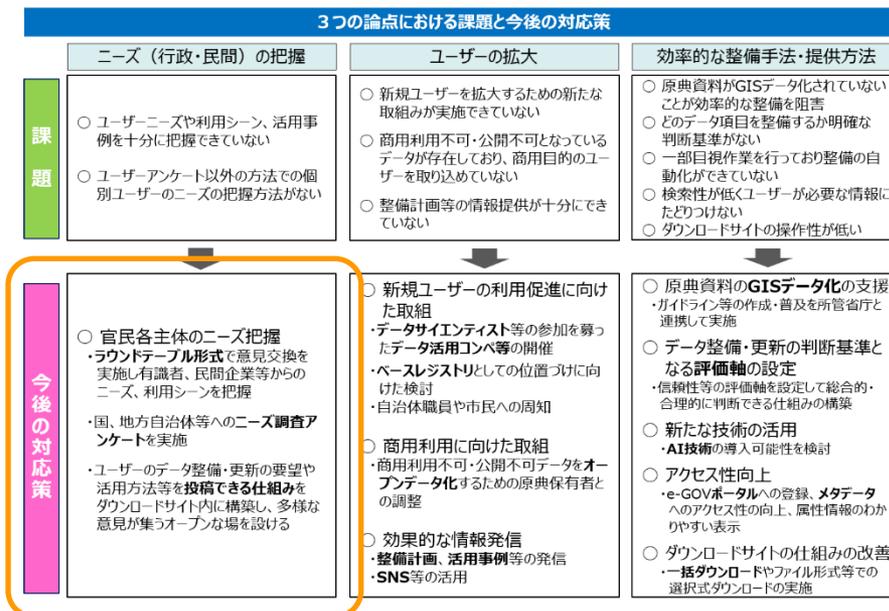
マンションの管理状況
(一般社団法人マンション管理業協会のデータを広島県がGIS形式に整備して掲載)



小学校区 (不動産情報ライブラリAPIデータ)

広島県庁「Dobox」: <https://hiroshima-dobox.jp/visualization5/>

最終とりまとめ(1) ニーズ(行政・民間)の把握 関連施策



ラウンドテーブル形式で意見交換を実施し有識者、民間企業等からのニーズ、利用シーンを把握

- 令和7年3月7日に、第1回 国土数値情報オープンデータラウンドテーブル「より開かれた・使われる国土数値情報に向けて」を実施。
- 当日の議論の内容をWebページ化し、国土数値情報ダウンロードサイトに公開済み。

第1回 国土数値情報オープンデータラウンドテーブル 「より開かれた・使われる国土数値情報に向けて」

開催日時 2025年3月7日

会場 Snowflake合同会社 会議室

【登壇ゲスト (敬称略、五十音順)】

井口 奏大 株式会社MIERUNE執行役員CTO

岩崎 巨典 鳥取大学 農学部 生命環境農学科 里地里山環境管理学コース 教授
一般社団法人OSGeo日本支部 代表理事

橋本 武彦 株式会社GA technologies Product Management
- / Advanced Innovation Strategy Center General Manager

松岡 明 株式会社ネットデータ代表取締役

【事務局等メンバー】

桜井 駿 一般社団法人不動産建設データ活用推進協会 代表理事

上原 玄之 Snowflake合同会社
インダストリー事業開発本部 金融インダストリー統括部長

令和7年度の取り組み予定

単独の企画としてではなく、データコンペ (地理空間情報データチャレンジ) の関連イベントとしての実施を検討

ディスカッションの内容

- 各社での国土数値情報の利用状況
- 国土数値情報はどのように活用されているのか
- 付加価値とコスト削減の両立
- 国土数値情報のみならず活用が進む公的なオープンデータ
- 位置情報をもたらすDXの推進
- データの質と使い手の増加はどちらが重要か
- データ活用は量が質を凌駕する時代へ
- データ整備・公開における課題と展望
- 国土数値情報は日本の基礎データ、データ活用を牽引する存在へ

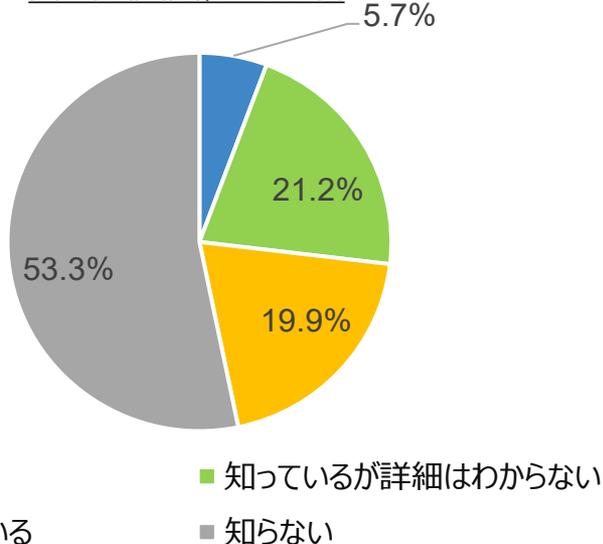
https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/event/event_03.html



国、地方自治体等へのニーズ調査アンケートを実施

- デジタル庁の「地方公共団体へのオープンデータの取組に関するアンケート」と連携し、国土数値情報の認知度、GISの活用状況、自治体標準オープンデータセットとの連携可能性等の設問を追加。
- 施設系のデータや災害リスク系のデータについて、連携すると良いという回答割合が比較的高い。

国土数値情報の認知度



■ 良く知っている

■ 知っているが詳細はわからない

■ 名前は知っている

■ 知らない

対象組織：全都道府県及び市区町村 (1,788団体)

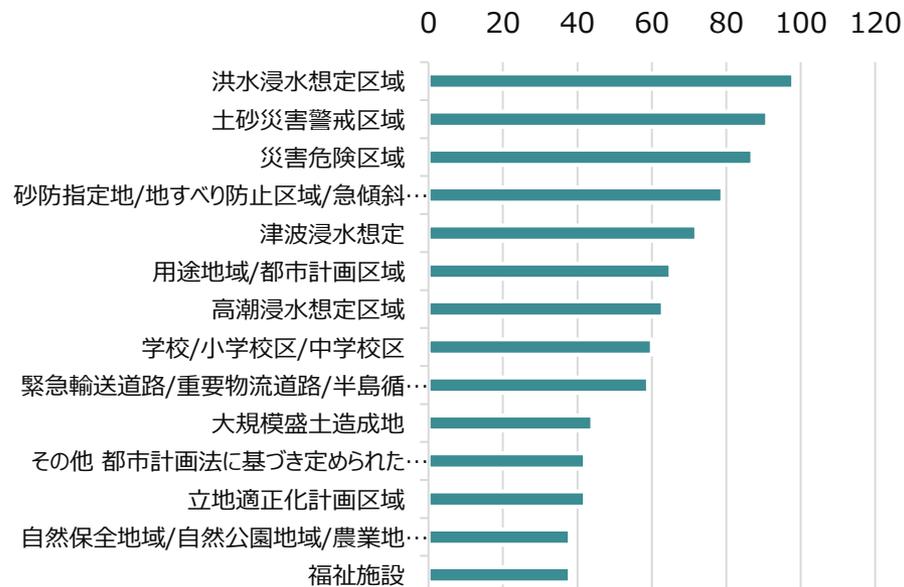
実施期間：令和6年9月上旬～10月下旬

回答数：1,449団体 (約81%)

https://www.digital.go.jp/resources/data_questionnaire

(上記URLに国土数値情報関連の結果は非公開)

国土数値情報のデータのうち、自治体標準オープンデータセットに加わる事によって、原典となるGISデータ整備が行いやすくなると思うデータ



令和7年度の取り組み予定

引き続き、自治体標準オープンデータセットとの相互連携を模索、自治体における課題や支援ニーズの把握に努める

ユーザーのデータ整備・更新の要望や活用方法等を投稿できる仕組みをダウンロードサイト内に構築し、多様な意見が集うオープンな場を設ける

- 令和7年3月27日に、「サイトへのご意見・ご要望」「データ新規公開・更新のご意見・ご要望」「活用事例のご投稿」「エラー情報公開ページ」をリリース。

サイトへのご意見・ご要望

サイトへのご意見・ご要望（国土数値情報ダウンロードサイト）

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

* 必須の質問です

お問合せ先（メールアドレスまたは電話番号） *

データ新規公開・更新のご意見・ご要望

データ新規公開・更新のご意見・ご要望（国土数値情報ダウンロードサイト）

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

* 必須の質問です

ご要望の種類 *

活用事例のご投稿

国土数値情報ダウンロードサイト
初めての方へ 利用規約 その他 お問合せ

国土数値情報
位置参照情報
国土調査
地図で見る

※国土数値情報の活用事例を募集しています。活用事例をご投稿いただける方は [こちらのフォーム](#) からご寄せください。

[活用事例](#)

活用事例一覧

エラー情報公開ページ

国土数値情報ダウンロードサイト
初めての方へ 利用規約 その他 お問合せ

国土数値情報
位置参照情報
国土調査
地図で見る

TOP > 国土数値情報 > エラー情報

ご利用の皆様から寄せられた、データに関するエラー情報を掲載しています。

受付日	最終更新日	データ名	データ年度	エラー内容	コメント	状況

ユーザーのデータ整備・更新の要望や活用方法等を投稿できる仕組みをダウンロードサイト内に構築し、多様な意見が集うオープンな場を設ける

- 令和6年11月22日に、アイデアの拾い上げや産学官の多様な人材との双方向コミュニケーションを行う「場」として、「地理空間情報課ラボ」をリリース。

「地理空間情報課ラボ」とは

地理空間情報を巡る最新動向や先進技術、これまでの手法によらないアイデアを政策に積極的に取り入れるため、アイデアの拾い上げや産学官の多様な人材との双方向コミュニケーションを行う「場」として、「地理空間情報課ラボ」(webサイト)を11月に立ち上げ。

ロゴマークは、「意見箱から輝くアイデアを拾い出す」をコンセプトとし、緑と黒のパーツは、「双方向コミュニケーションの矢印」、ラボの「L」、ユーザーの投稿アイデアを入れた箱を、青の四角形は、「アイデア箱から拾い上げられた斬新なアイデア」をイメージ。



地理空間情報課ラボ

MLIT GIS LAB

コンテンツ概要

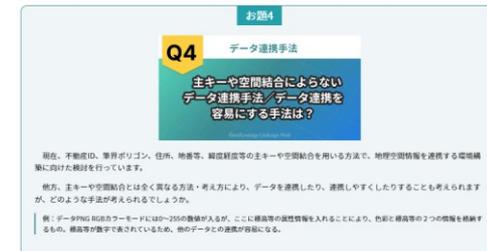
① 実験的取組の紹介

地理空間情報課が行っている実証実験等について、担当職員が随時情報を発信。検討状況をリアルタイムで共有し、皆様からアイデアやコメントを募集することで、双方向のコミュニケーションを図る。

② データ連携に関する課題解決アイデア募集「GeoSynergy Linkage Hub」の実施

地理空間情報課では地理空間情報を正確かつ容易に連携させる環境の構築に取り組んでいるところ。その過程で生じた課題を問題形式で出題し、産学官の多様な人材から課題解決アイデアを募集。

優れたアイデアについては、同ラボのスペシャルサポーター（学術、自治体、民間企業等の多様な分野で活躍する地理空間情報のエキスパートから構成）が「地理空間情報課ラボ」として認定し、本ウェブサイトで紹介するとともに、今後施策立案において活用する予定。



- 8件のお題に対して、24件の応募があり、スペシャルサポーターによる審査を経て8件を「ラボ認定アイデア」としてラボHPに公開。合わせて、認定された提案者との座談会動画も実施し、同サイトに公開。

募集を実施したアイデアと応募・認定数

No	アイデアを募集したお題	応募	認定
1	[不動産情報ライブラリ] 地価公示及び地価調査の箇所の同一地点判定時の精度を高めるために、追加すべき項目とは？	3	1
2	[データ関係手法] データを空間結合もしくは属性情報を用いて正確かつ扱いやすい形で結びつける手法とは？	7	1
3	[不動産登記ベースレジストリ] 不動産登記データと分譲マンション実態調査データをブリッジするデータは？	3	0
4	[データ関係手法] 主キーや空間結合によらないデータ関係手法/データ関係を容易にする手法は？	1	0
5	[建物へのIDの付番] 位置情報を基にしたIDを作成する場合に、ID自体のデータ量を抑えつつ、かつ建物毎にユニークなIDを付番するには？	7	4
6	[不動産情報ライブラリのAPI連携] 不動産情報ライブラリ上の複数の情報をデータセットとしてAPIで提供する場合どの組み合わせが有効か？	0	0
7	[土地境界データの活用] 地番現況図と他データを組み合わせたユースケースについて	2	2
8	[建物ポリゴンのデータ関係] 建物登記と個別の建物ポリゴンを紐付け、3D都市モデルに地番を含む住所情報を付与させる手法とは？	2	1

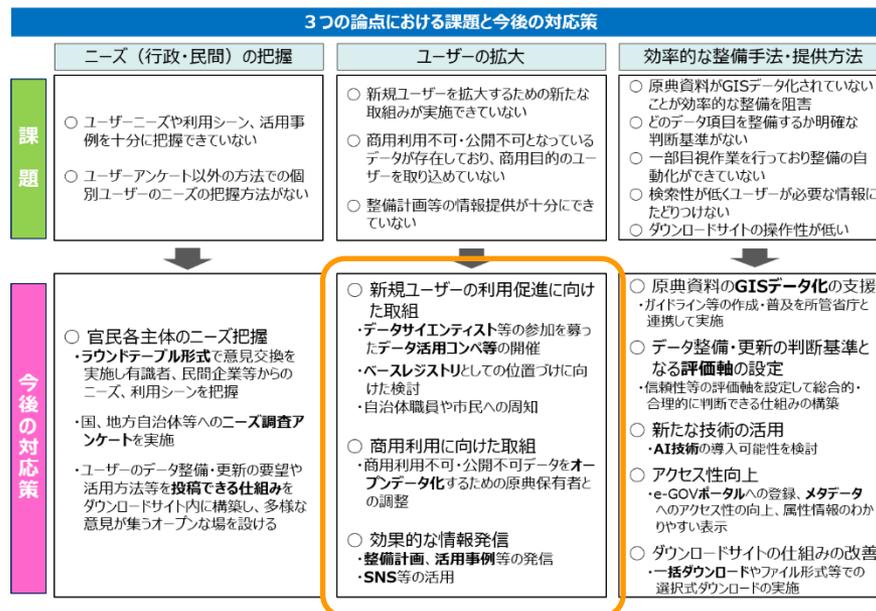
地理空間情報課ラボ GeoSynergy Linkage Hub

GeoSynergy Linkage Hub 認定アイデア詳細

<https://www.mlit-gis-lab.jp/idea/>

<https://www.mlit-gis-lab.jp/idea/certified-idea/>

最終とりまとめ(2) ユーザーの拡大 関連施策



データサイエンティスト等の参加を募ったデータ活用コンペ等の開催

- 地理空間情報の利用シーン・ユーザー拡大を目的として、データサイエンティストを対象とした国土数値情報等のデータを活用した賃料推定モデルの精度を競うコンペティションを開催（令和6年10月15日～12月13日）。優秀者はG空間EXPOで表彰（令和7年1月31日実施）。

第1回 国土交通省 地理空間情報データチャレンジ ～国土数値情報編～

部門	モデリング部門	アイデア部門
課題	不動産の賃料を予測するモデルの構築 (国土数値情報の利用必須)	不動産市場の物件価値を高めるための アイデアの提案
提出物	予測結果	レポート
評価方法	予測精度による定量評価	審査による定性評価
参加者数	総参加者数：1,532名 モデリング部門：1,387名 モデル投稿件数：9,680件 アイデア部門：145名	

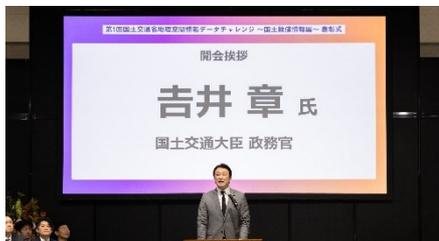
【協賛企業および提供データ・提供環境】



主催：国土交通省 政策統括官付 地理空間情報課

運営事務局：一般社団法人不動産建設データ活用推進協会 GIS・人流データ委員会 参画企業、株式会社SIGNATE、株式会社YX Partners

表彰式の様子（G空間EXPO メインステージ）



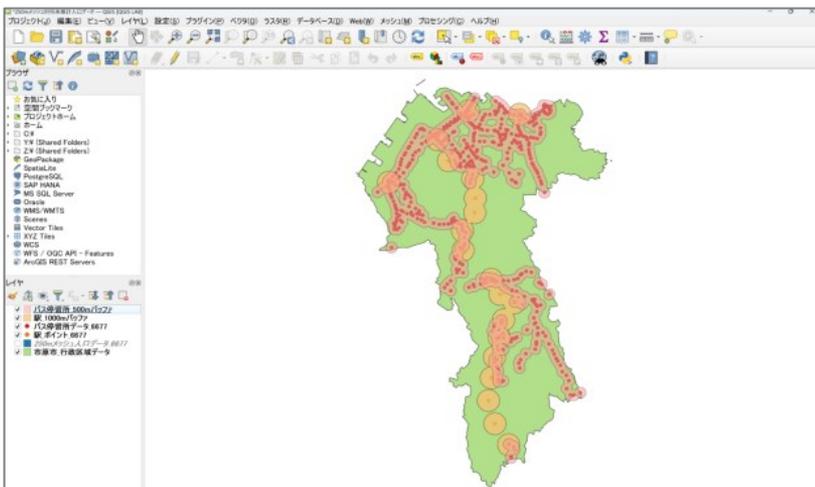
令和7年度の取り組み予定

「第2回 地理空間情報データチャレンジ」の開催、関連イベントとしてラウンドテーブルを実施

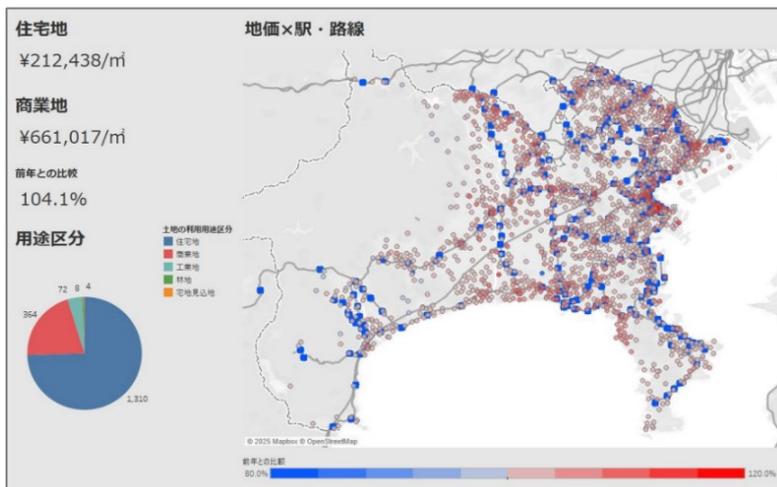
自治体職員や市民への周知

- 令和7年4月22日に、「QGISによる国土数値情報活用マニュアル」「Tableauによる国土数値情報活用マニュアル」をダウンロードサイトで公開。(Web版に先駆けてPDF版を公開)

QGISによる国土数値情報活用マニュアル



Tableauによる国土数値情報活用マニュアル



- 国土数値情報とQGISを活用した交通空白地の抽出と人口分析
- 国土数値情報 洪水浸水想定区域データとQGISを活用した災害リスクの可視化
- 国土数値情報 地価公示データとQGISを活用した都市の地価分析
- 国土数値情報とQGISを活用した立地適正化計画における居住誘導区域の人口推移分析 (※近日公開予定)

- Tableau ダッシュボード作成① 神奈川県地価公示データ×駅別乗降客数データ・鉄道データ
- Tableau ダッシュボード作成②(神奈川県中学校区データ×メッシュ別将来推計人口データ)

自治体職員や市民への周知

- 地理空間情報・主題図・GISによる課題解決の概論、国土数値情報の紹介、QGISの紹介・操作実演等を盛り込んだ「GIS実習」を、省内外で複数回実施。

①省内での実施

総合政策局 行政情報化推進課と調整し、事前にQGISをダウンロードできる環境を整えるとともに、必要なGISデータを配布することで、基礎的な内容の講義にとどまらず各自のPCで実務に則したテーマで分析（可視化・演算）を行う、実技型の研修を実施。

- ・ 初級編：令和6年5月17日（金）24名参加
- ・ 応用編：令和6年8月8日（木）23名参加 ※初級編と同じ局・課から参加

②国交大 地域公共交通研修

①に参加いただいた総合政策局・地域交通課が主体となって毎年実施している「地域公共交通研修（全5日間）」の3日目に、GIS・国土数値情報の紹介と、QGISを使った公共交通空白地の抽出と人口計算の実演を実施。1月実施ではさらに主題図等の基礎解説を追加。

QGISについては参加者は操作をせずデモ操作を見る形式で、操作手順を詳しく記載したテキストを配布。

- ・ 令和6年10月9日（金）45名参加
- ・ 令和7年1月29日（水）27名参加

③中部管区警察局での出前講座

国土交通省が取り組む出前講座経由で依頼を受け、②の内容をベースにした講義を実施。現地とオンラインの併催。

- ・ 令和7年2月17日（月）現地17名、オンライン22名参加



省内QGIS実習（応用編）の様子



国交大柏研修センターでの研修の様子

令和7年度の取り組み予定

令和7年6月18日（水）地域公共交通計画でも講義を実施予定
 “地域公共交通計画の「アップデートガイダンス Ver1.0」”をふまえた内容へのアップデート

○ 「交通空白」の解消に向け、地域公共交通計画の作成や改訂に取り組む地方公共団体の職員等が、計画の意義やアップデートの進め方を理解して実践できるようにするための支援を目的に、モビリティデータを活用した現状診断やKPI設定等の手法を解説した「アップデートガイドンス」を、令和7年3月31日に公開。(総合政策局 地域交通課)

① データを活用した現状診断のポイント

- 地域公共交通計画の「アップデート」に向け、地域交通の課題や将来の見通しを可視化し、施策の解像度・データの活用が必要不可欠です。
- 本概要版では、横計ステップごとに、可視化する際に活用できるデータや具体的な分析・考察のイメージを解説しています。

概要版

手順書

1. 現状診断

【人口情報】と【地域特性情報】を重ね合わせましょう

- 人口情報(居住人口、高齢人口、従業員数など)と地域特性情報(商店、学校、観光地など)、土地利用計画(区域など)を重ね合わせることで、移動の状況・目的地的な分布状況を把握します。また、以降の検討の基礎情報とします。

重ね合わせる情報の例

- 人口情報: 居住人口、高齢人口、従業員数
- 地域特性情報: 商店、学校、観光地
- 土地利用計画: 商業地域、住宅地域

重ね合わせるイメージ

活用できるデータの例

データ項目	データ情報
人口情報	居住人口 (住民人口)
地域特性情報	商店・学校・観光地
土地利用計画	商業地域・住宅地域

「データ活用の手引き」の意義

(5)モビリティデータの重ね合わせに活用できる主な情報ソース

1) モビリティデータの重ね合わせに活用できる主な情報ソース

2) 国土数値情報

3) 標準的なバス情報フォーマット

データ活用の手引き

データ活用の手引き

【参考】基礎データ項目一覧

種別	データ名称	データ提供元	現状診断(注)
1 基礎データ	人口情報(国勢調査)	国土数値情報、e-stat、国勢調査	現状診断(P.6,7)
	高齢者人口(国勢調査)	e-stat、国勢調査	
	高齢者人口(労働力調査)	国土数値情報、e-stat、労働力調査	
	従業員数	e-stat、経済センサス	
2 地域特性情報	主要施設	国土数値情報(3)、地域「施設」に関するデータ/施設の詳細情報	現状診断(P.6,8)
	土地利用	国土数値情報(2)、土地利用「用途」に関するデータ	
	地形情報	国土数値情報(1)、国土「地形」に関するデータ	
	事業所数	e-stat、経済センサス	
3 標準的なバス情報フォーマット	路線情報	国土数値情報(4)、道路情報/都道府県別	現状診断(P.9-12)
	バスネットワーク情報	国土数値情報(4)、交通/交通事業者データ/GTFS-JP	
	バスネットワーク情報	国土数値情報(4)、交通/交通事業者データ/GTFS-JP	
	タクシースタンド・乗降場	タクシースタンド・乗降場	
4 KPI・目標値の設定	各都市圏のバス乗降客数(アパレル/アパレル)	国土数値情報(16)、交通/交通事業者データ/GTFS-JP	KPI・目標値の設定(P.27)
	各都市圏のバス乗降客数(アパレル/アパレル)	国土数値情報(16)、交通/交通事業者データ/GTFS-JP	

アップデートガイドンスでは、「人口情報」「地域特性情報」「交通ネットワーク情報」「交通サービスの利用情報」を重ね合わせることで、地域交通の課題や将来の見通しを可視化する現状診断と、施策設定後のKPI・目標値の設定例・算出方法について、詳しく紹介されている。

このうち「概要版」および「手順書」では、「地域特性情報」として**国土数値情報の標高・傾斜度、土地利用、医療機関・福祉施設、学校、観光資源**などのデータが、「交通ネットワーク情報」として**鉄道やバス路線・バスルート**などのデータが、それぞれ「活用できるデータの例」として取り上げられている。

アップデートガイドンスにおいては、交通に直接関係するデータだけでなく、地域交通を考える際に必要となる様々な周辺情報も含めて「モビリティデータ」と呼ばれており、「データ活用の手引き」ではモビリティデータの主な情報ソースとしてRESAS、e-stat、標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP/GTFS-RT)とともに**国土数値情報**が紹介されているほか、モビリティデータの重ね合わせに利用できるツールとしてGIS・QGISも詳しく紹介されている。

商用利用不可・公開不可データをオープンデータ化

商用利用不可・公開不可データをオープンデータ化するための原典保有者との調整

- 不動産情報ライブラリの稼働に併せ、自治体等に対して商用利用可とする調整を実施。小中学校区やハザード系データなど7つのデータ種別でのべ170の都道府県・市区町村のデータを商用利用可に変更。また駅別乗降客数データは全データ商用利用不可→商用利用可に変更。

対象データ	調整前	調整後	調整(依頼)ルート
小学校区	63自治体NG	25自治体NG	市区町村担当部局に依頼
中学校区	64自治体NG	25自治体NG	市区町村担当部局に依頼
福祉施設（保育所含む）	39自治体NG	14自治体NG ※施設によってNGはあり	都道府県市区町村担当部局に依頼
地すべり防止区域	14区域（10県）NG	福岡県の2区域のみNG	都道府県担当部局に依頼
急傾斜地崩壊危険区域	5自治体NG	全てOK	都道府県担当部局に依頼
災害危険区域	8自治体NG	3自治体NG	都道府県市区町村担当部局に依頼
自然公園地域など4地域	全てNG	岡山県のみNG	土地政策課経由で都道府県に照会
駅別乗降客数	全てNG	全てOK	鉄道局経由で事業者へ照会

令和7年度の取り組み予定

原則、今後の国土数値情報の整備・更新では商用利用可とするよう自治体等に働きかけを行う

整備計画、活用事例等の発信

- 「令和6年度 国土数値情報の活用事例収集業務」において、75件の活用事例を収集。そのうち10件程度をピックアップし、ダウンロードサイトの活用事例ページで順次公開していく予定。



Home 国土数値情報 活用事例リンク お問い合わせ

国土交通省

国土数値情報活用事例の募集

国土数値情報の活用に関する事例の募集

【目的】
本募集は、「より開かれた・使われる国土数値情報」への転換を進めるために、国土数値情報のユーザーニーズや具体的なユースケースを把握し、今後のデータ整備・提供の参考とすることを目的に、ユーザーの皆様から実際の活用事例を募集するものです。

【募集内容】
募集する内容は以下のとおりです。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
① 産学官問わず、自組織（個人含む）の活用事例を広く募集いたします。
② 産学官問わず、どのような活用事例がありまよという情報も募集いたします。

なお、特に以下に該当する活用事例の情報をご提供いただければ幸いです。

- ・以下のデータ項目を活用している事例
 - ・土地利用データ（土地利用3次メッシュ、土地利用詳細メッシュ等）



Home 国土数値情報 活用事例リンク お問い合わせ

国土交通省

国土数値情報活用事例の募集

活用事例募集フォーム①

活用事例募集フォーム②

① 土地利用の活用事例を投稿する場合はこちら

② 物産の活用事例を投稿する場合はこちら

国土数値情報活用事例●お問い合わせフォーム

国土数値情報活用事例●お問い合わせフォーム

氏名*

氏名

メールアドレス*

メールアドレス

電話番号*

電話番号

利用するお電話番号

令和7年度の取り組み予定

10事例を目処に順次ダウンロードサイトに公開するほか、活用事例投稿フォームへの投稿をX投稿や講演等において促し、民間領域や教育分野での活用事例を積極的に収集・発信

SNS等の活用

- 地理空間情報課の公式Xアカウントでは、令和6年度で65件の投稿を実施。うち、国土数値情報関連が28件、国土数値情報+人流+不動産情報ライブラリで48件。
- データ公開（メッシュ別将来推計人口）、ダウンロードサイトの機能追加（一括ダウンロード）、データコンペ開催案内などが特に閲覧数・リポスト数が多く、今後も様々なジャンルの情報発信を行う。

閲覧数が比較的多かった投稿

【公式】国土交通省政策統括官付地理空間情報課 @GIS_MLIT · 2月5日 ...
 \国土数値情報データ更新🔥📄/
 「メッシュ別将来推計人口」データの最新版（R6国政局推計）を公開しました。従来の1km、500mメッシュに加え250mメッシュを新規追加、Shapeに加えGML・GeoJSON形式のデータも公開しています。

新着情報！
niftp.mlit.go.jp/ksj_news.html

55 143 1.6万

【公式】国土交通省政策統括官付地理空間... @GIS... · 2024年11月22日 ...
 国土数値情報ダウンロードサイト機能追加🔥📄

本日、一部ページにてデータの一括ダウンロード機能を実装しました。「地価」「災害・防災」など9カテゴリ計86ページが対象です。また、残りのカテゴリについても11/29（金）に実装予定です。

詳細は！
niftp.mlit.go.jp/l_news.html#ne...

ぜひご活用ください！

43 118 1.9万

【公式】国土交通省政策統括官付地理空間情報課 @GIS_MLIT · 1月29日 ...
 \G空間EXPO、出展中🔥📄/
 29日(水)～31日(金) 東京ビッグサイトにて開催中のG空間EXPO2025に出展しています。お越しの際はぜひE11ブースへお立ち寄りください🔥📄
 #G空間EXPO

12 37 5,743

【公式】国土交通省政策統括官付地理空間... @GIS... · 2024年10月4日 ...
 「より開かれた・使われる国土数値情報」を目指して、
 \地理空間情報を活用したデータ分析コンペティションを初開催します🔥📄/
 ぜひご参加ください！
 データコンペの詳細はこちら
signate.jp/competitions/1...

プレスリリース

mlit.go.jp
 国土交通省 | 報道資料 | 地理空間情報を活用したデータ分析コンペティションを初開催します～データサイエンティストによる国土数値情報の利用拡大を目前～

53 116 2.9万

【公式】国土交通省政策統括官付地理空間情報課 @GIS_MLIT · 4月22日 ...
 本日、国土数値情報を用いた具体的な可視化・分析手法のマニュアル（PDF版）を公開いたしました🔥📄（Web版は後日公開）

掲載分析例
 ・国土数値情報とQGISを活用した交通空白地の抽出と人口分析
 ・Tableauダッシュボード作成（地価公示×駅別乗降客数・鉄道）ほか

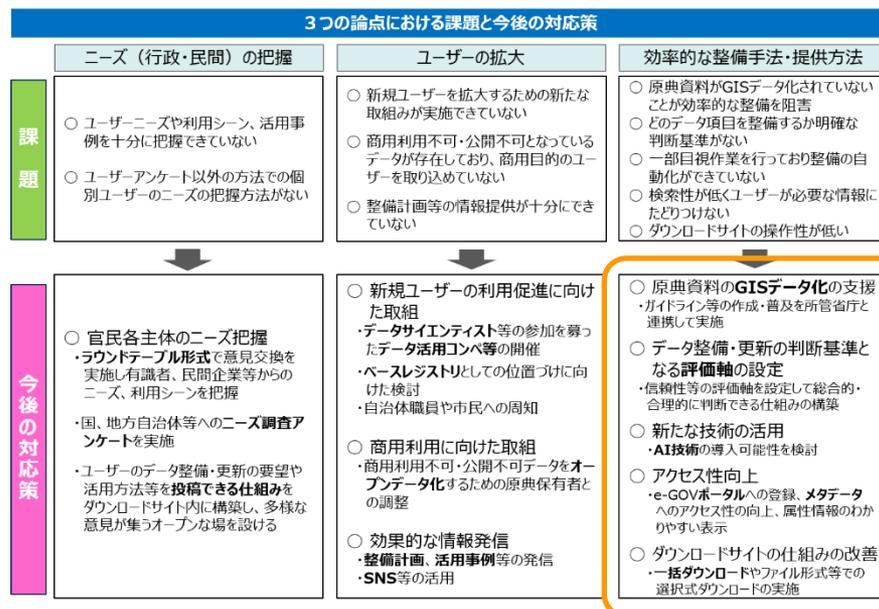
詳細は！
niftp.mlit.go.jp/ksj/manual/man...

72 189 1.7万

令和7年度の取り組み予定

データ整備やダウンロードサイトの更新情報だけでなく、イベント参加等も積極的に発信するとともに、公開を予定している活用事例の周知をSNSで行う

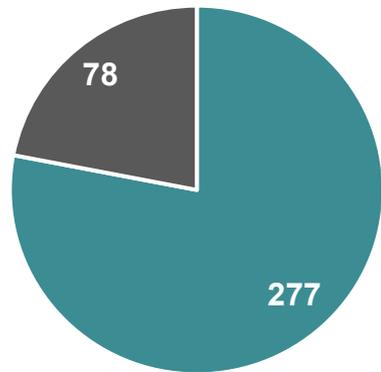
最終とりまとめ(3) 効率的な整備手法・提供方法 関連施策



原典資料のGISデータ化の支援 - ガイドライン等の作成・普及を所管省庁と連携して実施

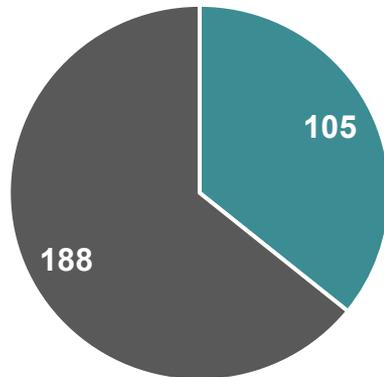
- 地方自治体の建築基準法関連情報について、GISデータ整備・活用の状況を把握するためのアンケートおよびヒヤリングを実施。
- 「建築分野におけるGISデータ整備・活用ガイドライン (仮)」の骨子(構成)について検討。

道路 (建築基準法第42条)
GISデータ整備状況

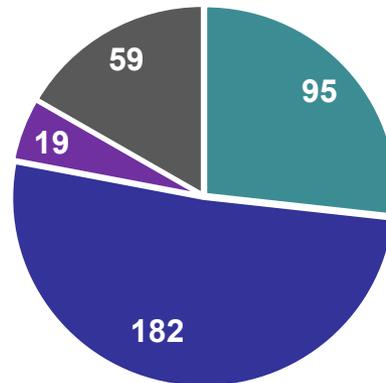


■ GISデータあり ■ GISデータなし

屋根の構造に係る規制区域
(建築基準法第22条)
GISデータ整備状況

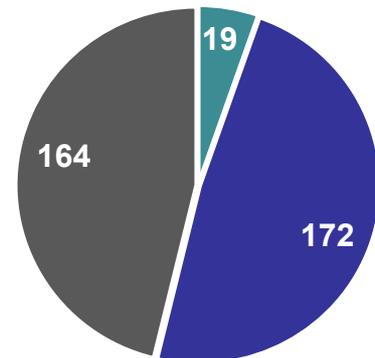


■ GISデータあり ■ GISデータなし



GISデータの利用状況

- 内部業務用で非公開
- 保有しているGISデータの一部を公開
- 保有しているGISデータのすべてを公開
- (無回答)



GISデータを一部又は全部保有している場合の公開の方法

- ダウンロード可能なGISデータの形式での提供
- パソコンなどの画面上に表示する形 (WebGIS) で提供
- 無回答その他

令和7年度の取り組み予定

自治体からGISデータ (特に道路関係のデータを想定) を実際に収集・分析仕様を共通化したGISデータ化 (国土数値情報化) の試行作業を実施

新たな技術の活用 - AI技術の導入可能性を検討

- 「令和6年度 先進技術を用いた国土数値情報整備手法の高度化検討業務」において、主に土地利用データ整備におけるAI活用について検討および検証用のモデル構築を実施。
- 検討内容をふまえ、第10次土地利用データ整備に向けた準備を進める。

AI等先進的手法の活用検討

- 検証に用いる衛星画像と次期土地利用データ整備に用いる画像の検討
- 土地利用の判読等に用いるAI及び活用局面の検討
- **土地利用判読及び更新に係る効率的なデータ整備手法の調査及び開発・検証**
- AIを用いた土地利用判読プロセスの検討

整備方針の検討

- 土地利用分類項目の検討
- 業務効率化手法の検討

次年度(以降)の作業内容の検討

- 次期土地利用データ整備に向けて準備及び決定すべき事項
- 次期土地利用データ整備の検討
- 検討、検証を深めるべき事項

土地利用判読以外のAIの活用検討

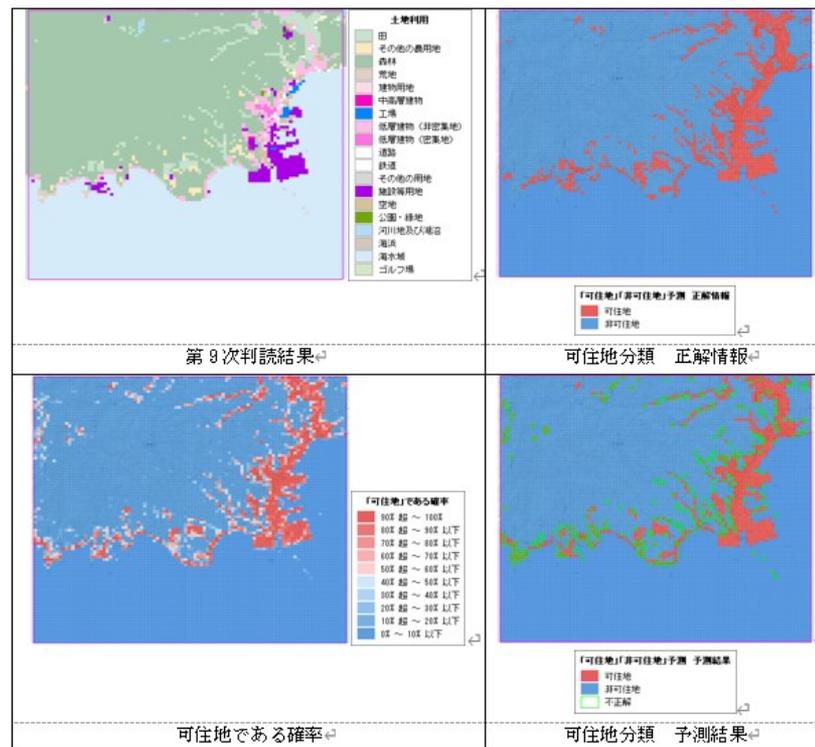


図 3.1.4-11 Sentinel-2 画像による可住地分類の予測結果

令和7年度の取り組み予定

第10次データ整備に向けた業務フローの整理、継続的なAI開発のためのドキュメント等作成
 実際の利用局面のヒヤリング

e-GOVポータルへの登録、メタデータへのアクセス性の向上、属性情報のわかりやすい表示

- e-GOVポータルへの登録について、デジタル庁担当と登録方法の調整。商用利用不可のデータについてはメタデータの記載方法など検討が必要な事項が多く、まずは商用利用可のデータから登録を進める。
- 国土数値情報ダウンロードサイトにおいては、令和7年1月29日に「JPGIS2.1準拠 整備データ一覧ページ」をリリースし、メタデータや使用許諾条件などを一覧で確認可能に。

JPGIS2.1準拠 整備データ一覧ページ

■ JPGIS2.1準拠 (シェープ、xml、GeoJSON) 整備データ一覧

2025年2月現在、JPGIS2.1準拠 (シェープ、xml、GeoJSON) で整備しているデータは以下の通りです。
このページに表示している「使用許諾条件」はそのデータの最新版のものとなります。旧版では使用許諾条件が異なることがありますので、必ず使用する版の使用許諾条件をご確認ください。

データ名	属性情報	データ提供単位	位置正確度	メタデータ (記述形式: JPM2.0)	使用許諾条件
【水域】					
海岸線	属性情報	都道府県	原典資料と比較。適合品質水準は水平位置の標準偏差: 0m		■ 非商用
海岸保全施設	属性情報	都道府県	—		■ 非商用
湖沼	属性情報	全国	数値地図25000 (空間データ基盤) と比較。		■ 商用可
流域メッシュ	属性情報	1次メッシュ	抜取調査。誤差17.5m以内。		■ 非商用
ダム	属性情報	全国	—		■ 非商用

整備データ一覧ページのリリースに合わせ、データ一覧 (インデックス) ページにも使用許諾条件を表すアイコンを表示

1. 国土 (水・土地) ▾

水域

- 海岸線 (ライン) ■ 非商用
- 海岸保全施設 (ライン) (ポイント) ■ 非商用
- 湖沼 (ポリゴン) ■ 商用可
- 流域メッシュ ■ 非商用
- ダム (ポイント) ■ 非商用
- 河川 (ライン) (ポイント) ■ 非商用

地形

- 標高・傾斜度3次メッシュ ■ 商用可
- 標高・傾斜度4次メッシュ ■ 商用可
- 標高・傾斜度5次メッシュ ■ 商用可
- 低位地帯 (ポリゴン) ■ 商用可
- 大規模露土造成地 (ポリゴン) ■ CC_BY_4.0

土地利用

- 土地利用3次メッシュ ■ CC_BY_4.0
- 土地利用細分メッシュ ■ CC_BY_4.0
- 土地利用細分メッシュ (ラスト版) ■ 商用可
- 都市地域土地利用細分メッシュ ■ CC_BY_4.0
- 土地利用詳細メッシュ ■ CC_BY_4.0
- 森林地域 (ポリゴン) ■ CC_BY_4.0 (一部制限)
- 国有林野 (ポリゴン) ■ CC_BY_4.0
- 農業地域 (ポリゴン) ■ CC_BY_4.0 (一部制限)
- 土地利用細分メッシュ ■ CC_BY_4.0

令和7年度の取り組み予定

e-GOVポータルに商用利用可のデータ登録、商用利用不可/一部不可の記載内容等検討
個別データページの属性等の記載内容のクリーニング方法の検討

ダウンロードサイトの仕組みの改善 - 一括ダウンロードやファイル形式等での選択式ダウンロードの実施

- 令和6年11月22日に、一括/選択式ダウンロードのリリース。地理空間情報データチャレンジでの利用を考え、特に利用が多い9カテゴリ86ページで先行リリース。残りのカテゴリについても翌週にリリース。
- 令和7年1月29日に、都道府県や年度による表示データ絞込機能をリリース。
- 同日、メッシュデータの一括選択（全メッシュ一括選択）の機能をリリース。

九州 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県

沖縄 沖縄県

形式で絞り込み

年度で絞り込み

国土数値情報ダウンロードサービス (PGIS2.1 (GML) 準拠及びSHAPE形式データ) データのダウンロード

選択したデータ項目は、国土数値情報 洪水浸水想定区域データ (河川単位) です。

地域	形式	河川	測地系	年度	ファイル容量	ファイル名	ダウンロード	一括ダウンロード
北海道開発局	GML形式	洪水予報河川・水位周知河川	世界測地系	2023年(令和5年)	325MB	A31a-23_81_10_GML.zip		<input type="checkbox"/>
北海道開発局	シェープ形式	洪水予報河川・水位周知河川	世界測地系	2023年(令和5年)	286MB	A31a-23_81_10_SHP.zip		<input type="checkbox"/>
北海道開発局	GeoJSON形式	洪水予報河川・水位周知河川	世界測地系	2023年(令和5年)	211MB	A31a-23_81_10_GEOJSON.zip		<input type="checkbox"/>
北海道開発局	GML形式		世界測地系	2021年(令和3年)	11.7MB	A31-21_81_GML.zip		<input type="checkbox"/>
北海道開発局	シェープ形式		世界測地系	2021年(令和3年)	11.8MB	A31-21_81_SHP.zip		<input type="checkbox"/>

チェックを入れて一括ダウンロード
閉じる

ダウンロードするデータの選択 (ダウンロードしたいメッシュをクリックしてください) ※マウスカーソルを置いても着色されないメッシュは整備対象外のメッシュです。

測地系で絞り込み

年度で絞り込み

令和7年度の取り組み予定

ダウンロードサイトのリニューアルを見据えた調査、データの使いやすさの改善（改善方法の検討）等